

(2024.5.31)

謎解きマルコ・ポーロ XXVI

商人か密偵か使者か

— マルコ・ポーロの正体 —

(Ch. 96-98)

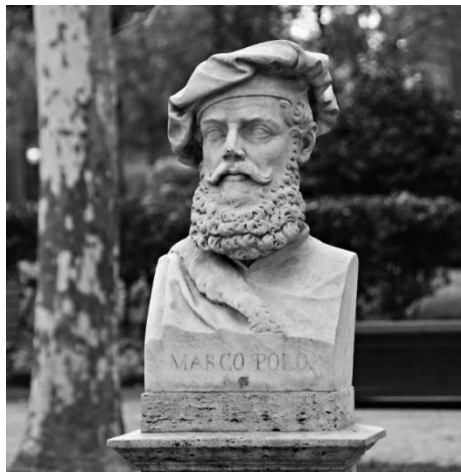


図1 マルコ・ポーロ像 Viale dei Bambini, Pincio, Roma

マルコ・ポーロはどんな人物だったか、有能で誠実な若者だったかそれとも抜け目ない野心家だったか。

マルコ本人にまつわる記録は二種類ある。一つはいうまでもなく本書であり、もう一つは帰国後特にジェノヴァの牢から解放後の古文書である。古記録は主に、叔父マッテオや甥若マルコら親族の古文書特にその遺言書に記された財産に関するものと、それらをめぐるマルコの側からの裁判のものからなる。詳細は旧稿「年次考」¹⁾に譲るが、その過程でマルコは、最初父ニコロ・叔父マッテオと3等分して持っていた財産、特に帰国後すぐ3人で購入したサン・クリストモ区の名高い「Ca' Polo ポーロの館」とその権利を、父と叔父の死に伴いあるいは甥たちへの金貸しのカタに全て手中に収めている。

また、東方から持ち帰った珍奇な品々元手の商売もしていたようで、パオロ・ジラルドなる者に麝香の販売を委託したが、売れ残って返された1ポンドを計ってみたところ1サ

ッジョ（6分の1ポンド）足りなかったので、その分20デナロを要求したといった、肉体1ポンドではないが、何やらシェイクスピアの「ヴェニスの商人」を思わせるような裁判記録（1311年）も残っている。もう一つの金儲けは投資で、「コッレガンツァ」（共同投資）を組み、交易の資金を提供していた。が、これが儲かったかどうかは記録がない。生活費は、ヴェネツィアの国債を買ってその利子で賄っていたようである。

以上のどれをとっても、もう一方の記録『世界の記』の、世界を駆け巡った行動人ポーロ、グラン・カン・クビライの使者マルコ殿の面影はなく、イメージは暗い。商業・経済だけではなく、政治・社会・宗教の場でも一切オモテに出てこない。ポーロ家は貴族の家系で十分その資格はあったが、大議会の議員に選ばれたことも、地区代表として活動した形跡も、教区の役員になった記録もない²⁾。それ以上に不思議なのが、ジェノヴァの牢からヴェネツィアに戻って以後は、その稀有な経験と知識を買われて東方交易の代表団に選ばれたり、自らふたたび東方に出掛けたりすることもなかったことである。つまり、商とは一切手を切り、隠棲した。

この変化は、その落差があまりにも急激で大きいこと、帰国時41歳でまだ引退する年齢ではないこと、実際翌96年には再び東方に向わんとしていること（その途中ジェノヴァに捕まり牢に連行された）等から、ラムージョの言うごとく（ただし1298年のクルツォラ海戦）、その折かなりの程度に負傷し、社会的・商業的活動が困難になったためではないかと考えられている³⁾。恐らくそうだったであろうが、幸いなことにそうであってもポーロ家は十分に裕福だった。働かなくともやっていける資産が十分にあった。と同時に、だからこそ他に稼ぐ手段がなかったがゆえに、上のような強欲で吝嗇な生き方をするほかなかったのでもあろう。

では、その資産はどのようにして築かれたか。言うまでもなく、東方から持ち帰られた財宝によってであろう。ラムージョの描くとおりであったかはともかく、彼ら3人は十分な富を宝石で持ち帰ったことは確実視される⁴⁾。帰路トレビゾンダでギリシャのコムネノス政権によって4000イペルペロを没収されてなおである。彼にちなんで「コルテ・デル・ミリオン」と呼ばれる中庭に面したその館は、リアルト橋を北に渡ってすぐの市中心部にあり、その後建て直されてはいるが、一階部分は往時のままとされ、その地区の景観を刻んだ1500年の銅版画でも4階建てで、現在見られるものとさほど変わらない（5階部分は後に建て増されたのであろう）。当時も今も周辺の建物と較べても遜色ない十分に豪壮なものであった（図3・4）。全館ポーロの所有であったか、それとも一部の階だけであったかは分からないが、おそらく前者、全館所有し、余った部屋や階は親戚や他人に貸していたと見られる。それをポーロは、帰国後すぐおそらく翌1296年に買い取っている。つまり、それに十分な財を持ち帰った。

では、その富はどこで蓄えられたか、これまた言うまでもなく、主にカタイとマンジつまり中国においてであろう。

中国滞在中で、マルコ以上に不思議なのは父ニコロと叔父マッテオのことである。マル

コは、自称ながら一応表向きはグラン・カン・クビライの使者殿となっている。これに対して、ニコロとマッテオが何をしていたか、一切分からない。かの書に登場することもほとんどない。これはしかし作者二人の思惑、自分一人がヒーローになりたいマルコと、その彼をグラン・カンの使者に仕立てて物語を興味深くかつ権威あるものにしたいルスティケッロの共謀によるものであって、そのとおりであったわけでは全くないであろう。

その前に、ニコロとマッテオは先に第 1 回東行 (c1260-69) を経験しており、あらゆる点でマルコの先達であった。よく知られたことであり詳細は省くが、彼らはその途中バヤンと思しき高官と出会う上都在り、クビライに引き合わされた。二人がヴェネツィアからやって来たことを知ったグラン・カンは、彼らにヨーロッパのことキリスト教のこと等いろいろと尋ね、2 人はよくその期待に応えた。そして数年後、エルサレムの墓に燃える聖油とキリスト教博士百人を連れて来るという宿題を課してローマ教皇の許に使節として派遣されたという。

これまたそのままは信じられず、その結果が何も報告されていないことからしても、多分に彼らポーロの方から持ち掛けたものであったろうが (当時諸国を往来する者は、旅の安全と権威付けのために、君主や教皇の所用という体裁を取るのが常であった)、それはともかくクビライも、宗教・政治・軍事上のことだけでなく彼らに国際的な交易商人としても関心を抱き、ヨーロッパだけでなく道中各国・各地の産業と商業、特産物や商品、統治者やお金のことを知ろうとしたはずである。そして彼らにそのことでも利用価値を見出した。その間の中国滞在中 (c1261-67) 二人がどうしていたかは何も書かれていないが、それゆえ中国国内で自由に商活動することを許したことであろう。否むしろ、自分たちは得意ではなかった商業・経済活動に通じたラテン人として、モンゴル人に代って各地に派遣することもあったかもしれぬ。一種の御用商人である。それ以外には、彼らの中国滞在中の行動の説明がつかない。

そして最後に教皇の許に使者として遣わされ、その帰路息子マルコを連れて戻り、クビライに引き合わせた。これを嘉したグラン・カンは、マルコを使者として諸方に派遣した、という。今度はマルコであるが、同じパターンである。‘諸方’というのがどこに派遣されたか、‘使者’というのがどのような任務だったか、何一つ書かれていない。また、クビライが二十歳過ぎの若者のマルコだけを取り立て、経験豊かな父と叔父を無視したというのも考え難い。その間つまり 2 回目の中国滞在中 (1275-90)、ニコロとマッテオがどうしていたかもほとんど何も書かれていない。さらに、ニコロには中国で家族があり、彼らはマルコを含めて一家で行動していたフシがある⁵⁾。

こうした事どもを結び合わせると、今回も基本的には最初の時と同じ状況にあった、すなわち彼らは、マルコも含めて、中国で商売をすることを許されあるいは積極的に支援され、交易活動を展開していたのではないだろうか。マルコ一人の名を出したのはルスティケッロの思惑であり、彼らの代表としてであり、‘諸方に派遣された’というのはそのことで各地に赴いた、ということではないか。そしてそれらの報告が持ち帰られて、ジェノヴ

アの牢でマルコからルスティケッロに手渡され、本書になった。したがって、「世界の記」はマルコ一人の手になるものではなく、否むしろ彼ら家族、とりわけ叔父マッテオ、によるところが大きいと推測される。

話が思いがけず大きく逸れてしまったが、かの館を購入する原資となった資産は、これらの商行為によって蓄えられたものに違いない。長年の貢献と忠誠に対するグラン・カンからの報奨もあったであろうが、それだけでは十分ではなかったことであろう。

さて、前回の「狩」(Ch. 91-94)に、今回は Ch.96「紙幣」、Ch.97「統治」、Ch.98「駅」が続く。いずれもその分野、財政・統治・運輸通信、でのグラン・カン・クビライの偉業を紹介し讃えるものであるが、その中でマルコはそれぞれ違った顔を見せる。最初は「紙のお金」すなわち商であり、商人である。

1 拙著『世界の記』pp. 753-91、本誌第 5 号「伝記と生涯」に再録。 2 最近次のような記事が Il Messaggero 紙(2019.11.19)にあった：「1323 年 Santi Giovanni e Paolo 修道院の説教師会修道士たちからの、Giovanni delle Boccale の遺贈の受領に係るもので、その受領の証人の中に‘Sancti Iohannis Grisostomi 教区の Marco Paulo’の名が見える」(友人 Gianni Tripodi 氏より)。 3 ラムージョ「序文1」(本誌第 4 号「生涯と伝記」に再録)。 4 同上。 5 謎 VIII「ポーロ一家」(本誌第 2 号)参照。

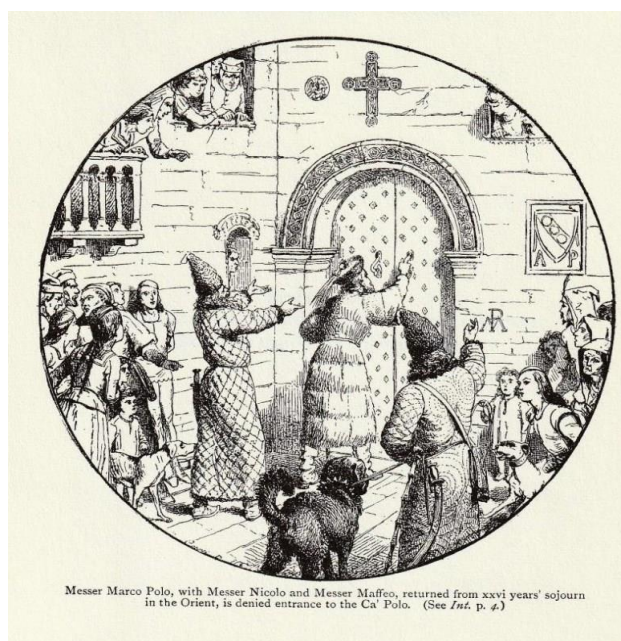


図2 ポーロ帰還 Yule, *The Book of Ser Marco Polo*, I, 口絵
(ラムージョ「タルタル風の厚手の着物の内にたくさんの宝石が縫い込まれてあった」)



図3 Ca' Polo (正面の建物)



図4 Ca' Polo (1500年、矢印②)

Ⅰ 商人マルコ

(Ch. 96 「紙のお金」)



図5 FB2:Oxford, Bodley 264, f. 242v

財宝を持ち込む人々、それを紙幣で支払うグラン・カン、
白く丸い紙のお金に筆で文字を書き込む役人、陰で見張る兵士

ポーロが商人であることは随所にうかがえた。どの都市や地方でも、その形態や地理と並んで特産物や商品が挙げられているし、目ぼしいモノ・価値高い物・珍しいものは、「金と絹の織物」(錦)、「ポルチェッラーナ」(磁器)、帰路インドの「胡椒」等、その価値や製法まで詳述されてあった。何をいくらで買ったといった話は出てこないが、それはルスティケッロによって禁じられていたためで、必ずや購ったり商ったりしたことであろう。

行動だけではない、そのメンタリティーにおいてもポーロは商人であった。この書で描かれるのはもっぱら物質世界であって、精神の世界ではない。文化、いわゆる文学や芸術に言及されることはまずないし、宗教は無視されないが、記されるのはそれが外へ現れた形、つまり信仰の形式や行動であって、その内に込められている精神、つまり教義や心性ではなかった。社会と人間についても同様である。強いモノ、富めるモノを素直に認め讃えるが、それをその底にある文化と歴史、すなわち文明の中に置いて見る・記すことはない。こうした点で、「紙のお金」を記すこの章の筆者はまさしく商人である。

legant sur bi nent. Et por ce qe
 ie uos ai otes acete mille ment
 plus chieres chouses et de grein
 gno: nallance et les greingno:
 quantites que en mille uille dou
 nuide et pul me: claudies hui
 uedent et aduient. Car saches
 de uos qe chascun lor bi entre
 en ceste uille plus de .v. claudie
 claudies de soie car il se la bouet
 mant d'as d'as et de soie. et
 en ceste ceste cite aenuient lor
 plus des .ii. et l'ougn et p'et. et
 les quelz mient les iens de ces
 tes uilles a chascun mantrest
 chouses acete cite. et de l'ougn
 les chouses qe aloi sunt beingn
 ables et por ce ne e grant chon
 se se en ceste cite de cabali me
 nent rantes chouses p'euos. u
 dit. Et depuis que ie uos ai dit
 ce mostre bien et a p'atant. or
 uos deuillera dou fait de la se
 qe et de la monoi qe se fait en c
 te cite meisme de cabali quoc
 mostre on de mant comant
 legant sur puer a se plus et
 faire et plus de pendre que ie ne
 uos ai dit ne ne uos ai dit en
 ce li ure raison comant. **Comet**
le gra: l'ant fait d'espere de cede
l'euoir que en po: monoi.
 ceste mille de cabali et la se que
 dou grant sire et e stable entel

maniere qe len poe bien sur quele
 grant air laquime p'etent. et le
 uos mostre on. or montre on. et la se
 es quil fait faire une tel monoi
 cum ie uos il fait p'endre es
 les d'ambres et e des moines que
 les d'ambres que font la se ment
 ient lor fientes et les boues son
 et qui e entre les coies et les fait
 de la se et de ces son bues fait
 fer chaire come celle de papir et
 sunt toutes noires et qu'et cestes
 chaires sunt faites il se fait meisme
 en tel maniere. car il en fait une
 petite que nait une meule de
 nesel petit et la une e de un toune
 sel en ceste petite et la une e de un
 gros carient et la une d'un gros
 d'ant que nait un gros d'ant
 ent de uenese et la une e de .ii. gros
 et la une de .v. gros. et la une de .x.
 gros et la une d'un begant et la une
 de .iii. et en si uant usqz en .x. be
 cant et toutes cestes chaires sunt
 seilles d'ou seel dou grant sire. et
 en fait faire signant quantite que
 tuit le regoi dou mode en paient
 Et quant cestes chaires sunt fait
 en la maniere qe ie uos ai otes
 il en fait faire toutes les p'entier
 et les fait despendre por toutes
 les p'oueres et regnes et de la
 ou il semignone et nulz ne le se
 refuser apoune de p'ardie l'ame

Et si uoz di que toutes les iens et regi
onz domes que sunt sont sa seingnorie
bienet uoluntier cestes chartre en pa
iement por ce que la onques il uont en
font tous lor paient et de mercha
ndises et de ples et de pierres precieuses et
de or et d'argent toutes choses en pient
achater et font le paient de ceste maniere
ie uoz di que si uoz di que la chartre que
semet por .x. bigant ne puisse pas un.
Et si uoz di que plusors foies lan
menet les merchaunt. et plusors en
sembles et ples et pierres precieuses
et com or et d'argent et d'autres choses
ce sont d'as trois et de soie et de si me
cant toutes de cestes choses present
augrant haant sire. Et le grant sire
fait appeler d'as saues homes que se
les choses sunt exlen et que moult
saues en ce faire il lor commande quil re
gardent cedes choses que les mercha
unt ont apores et quil le facent pa
ier de ce que lor semble que ualent. Et
celz d'as saues homes regardent cedes
choses et ce que lor semble que le ual
lent les font paier de cedes chartre que
ie uoz di a otes. Et les merchaunt les
net moult uoluntier por ce que il le
metent puis en toutes les choses
quil achatent por toutes les terres de
grant sire. Et si uoz di que mille faule
que plusors foies lan les merchaunt a
pour et tant de choses que bien ual
lent quatre et mil bigant. Et le

grant sire les fait toutes paier de ceste
chartre. Et en core uoz di que plusors
foies lan uant et mandent por le mile
que tant celz que ont pierres et ples et
or et argent le doiēt paier ala seque
du grant sire. Et il le font et bina
portent en si grant habundance que ce
est sans nombre. et tant sunt paies de
chartre et en ceste maniere ala grant
sire tout lor et l'argent et les ples et
les pierres precieuses de toutes les
terres. et en core uoz di une autre co
uisse que bien fait adire. car quant
len atenne ceste chartre tant que le sen
routent et que se gastent et il le porte
ala seque et il sunt changie as no
ues et si les des si uoluntier quil en
lase trois por. c. et en core uoz di une
bielle raison que bien fait adire en
notre hure car se une home uient a
cher or ou argent por faire son ual et la
ment ou se que centes et se que annes en
res il sen uant ala seque du grant
sire et porte de cedes chartre et les donc
por paient de lor et de l'argent quil
achate de seingnor de la seque et or
uoz a otes la maniere et la raison por
ce le grant sire doit auoir et la plus
tresor que nuls homes de ceste maniere.
Et si uoz di une seingnorie chose
se que tant les seingnor de seide net
ont si grant richesse come le grant
sire alol emant. or nos a otes et de
uise tout le fait de maniere le grant sire

48
fante monie de darte oz uoz deuse
rui deles grant seignorie qe de
ste cite de cambali ouissent por legat
sire. **De use v. en baron qe**
for totel fais du grāt kan.

O 12 saches nouement qelegant si
re a eslen. xij. grandissime baronz et
quelz bia comen qm soient forni
tes les donles legnables qeabe
sognēt en. xxxiii. prouēces qnos
dura lor maniere qloz establiēt
leuq di tout prameremāt qe cest
xii. baronz demorēt en un palais
de dens la uille de cābali. qe ē mout
grant qbiens qbia plosors sales q
mansoz q chascune prouēce un ui
gne qmanit esluen qe demorēt
en cest palais casam en la maison
por soi. Et cest jugie qcest esluen
font toutes les chausēs qe abegne
al prouēce adu il sime de pue qce
font por la uolunte qpor le comāta
manit des. xij. baronz qe uenq ai
dir. Et si saches tout nouement
qe cest. xii. baronz. ont si grant se
ignorie si uenq dura. car il esli
sent les seignors de toutes celes
prouēces qe ie uqz ar dir de soure
Et quant il les ont eslen tēz cō
lor senble qe il soient bien qdōsila
ble il les font sauoir augment sire.
Et legant sire les ofrene qil fait do
ner table dor tel come a la seigno
rie cōuenable. Et encore sime cest

baronz por pourceoir ou amēēt queles
hostes aillent qles ennoiet la o il lozē
ble qcele quātite q il uident mes to
utes foies ē ala seue dou grant sire. q
ensi si uenq ar dtes de cel dens dōn
ses font il de toutes les autres chon
ses qe sime les seignables as toutes
prouēces qe ie uqz a dtes. Et cest
sime apelles saens qe uant adire
la cort greingnor qe ne ē et forēz
que le grant sire le palais ou el de
morent ē ausi apelles saen qce est
bien la greingnor seignorie que
soit en toute la cort dou grant sire
car il ont bien le poir de faire grant
bien acul uelent les prouēces ne
uqz oterai ore por lor nō. por ce qe
iele uqz oterai nōstre liure apere
mant. qlaiserōn de ce q uqz oterōn o
mant les gran sire mant se q melanc
comāt il ont les cheuans aparoles
por aler. **Comāt v. la cite de cābali se pōt**
plosors foies q uqz por māt pro

O 12 saches por ce qe de uēces
ceste mē de cābali se pōt mout
noies les quel uont por manit p
uēces ce ē adire qe le mē nāt atel
pro uēces qceste atel. q toutes les no
ies sime deuses la on elle uont qce
ē mout sire dō use. Et saches qe
quant len se pōt de cābali portout
les noies qe ie uqz a dtes q il ē ales
xxx. mules adonc le mē nāt dou
grant sire qe ceste. xxx. mules ont

1777-71.

Coment le Grant Kaan fait despendre chartre por monoie.

Il est voir que en ceste ville de Canbalu est la secque dou Grant Sire **et est establi en tel** [44b] **mainere** qe l'en poet bien dir que le Grant Sire ait l'arquimie parfètement, **et le voç mostrerai orendroit.**

Or sachiés qu'il fait faire une tel monoie cum je voç <dirai>. Il fait prendre escorses d'arbres, ce est des morieres que les vermes que font la soie menujient lor frondes, et les bouces sutil qui est entre l'escorses et les fust de l'albre; et de celes sutil buces fait fer chartre **come celle de papir**, et sunt toutes noires. Et quant ceste chartre sunt faites, il le fait tri<n>chier en tel mainer: car il en fait **une petite que vaut une merule de tornesel petit**, et l'autre est de un tornesel encor petit, et l'autre est d'un mi gros d'arjent, et l'autre d'un gros d'arjent que vaut un gros d'arjent de Venese, et **l'autre est de .II. gros**, et l'autre de .V. gros, et l'autre de .X. gros, et l'autre d'un beçant, et l'autre de .III., et ensi vait jusque en .X. beçant. **Et toutes cestes charte sunt seellés dou seel dou Grant Sire.** Et en fait faire si grant quantité que tuit le treçor dou monde en paieroit.

Et quant cestes chartre sunt fait en la mainiere que je vos ai contés, il en **fait faire tous les paiemant** et les fait despendre por toutes les provences et regnes et teres la ou il seingnorie, et nulz ne le ose refuser a poine de perdre sa vie. [44c] Et si voç di que toutes les jens et **regionz d'omes**¹⁾ que sunt sout sa seingnorie prennent voluntier cestes chartre en paiemant, por ce que, laonques il vont, en font tous lor paiemant, et de merchandies et de perles et de pieres presieuses et d'or et d'arjent; toutes chouses en puent acheter, et font le paiement de le cartre ke je voç ai dit. **Et si voç di qe la cartre qe se met por .X. biçant ne puisse pas un. Et si voç di que** plusors foies l'an vienent les merchaant a plusors ensembles con perles et pieres presieuses, et com or et con arjent et con autres couses, ce sunt dras d'ors et de soie; et cesti mercant toutes de cestes chouses present<ent> au Grant Kaan sire, et le Grant Sire fait apeller doçe sajes homes qe sor celes chouses sunt exleu et que mout sunt sajes en ce fare: il lor conmande qu'il regardent celes chouses qe les merchaant ont aportés, et qu'il le faicent paier de ce qe lor senble qe vailent. Et celz doçe sajes homes regardent celes chouses, et ce qe lor semble qu'ele vailent les font paier de celes charte qe je voç ai contés, et les merchaant le prennent mout voluntieres, por ce qe il le metent puis en toutes les chouses qu'il achatent por toutes les teres do Grant Sire. **Et si voç di sanç nulle faile qe, plosors foies l'an, les merchaant aportent tantes chouses que bien vailent quatre çent miles biçant, et le** [44d] Grant Sire les fait toutes paier de celes charte.

Et encore voç di que, plusors foies l'an, vait <son> conmandement por le vile qe tuit celz qe ont pieres et perles et or et argent le doivent porter a la secque dou Grant Sire. Et

il le font et hi n'aportent ensi grant habundance qe ce est sanç nonbre; et tuit sunt païés de charte: et en ceste mainere a le Grant Sire tout l'or et l'arjent et les perles et les pieres presieuses de toutes sez teres.

Et encore voç di une autre cousse qe bien fait a dire: car, quant l'en a tenue ceste carte tant q'ele **s'en ronpent** et qe se gastent, et il le porte a la secque et il sunt cangiés as noves et fresches, si voiremant qu'il en lase trois por .C. Et encore voç dirai une bielle raison qe bieⁿ fait a conter en notre livre: car, se une home vuelt acather or ou arjent por fare son vaicelament ou seç centures et seç autres evres, il s'en vait a la secque dou Grant Sire et porte de celles charte et les done por paiement de l'or et de l'arjent qu'il achate **dou seingnor de la secque**.

Or voç ai contés la mainere et la raison por coi le Grant Sire doit avoir, et ha, plus tresor que nuls homes de ceste monde. Et si voç dirai une greingnor chouse: qe tuit les seingnor del siecle ne ont si grant richese come le Grant Sire a solemant.

Or vos ai contés et devisé toiut le fait comant le Grant Sire |45a| <fait> faire monioie de charte; or voç deviserai de les grant seingnorie²⁾ qe de ceste cité de Canbalu oissent por le Grant Sire.

1 Bn *jenerasion d'omes* <人種>. 2 (Cf. 和訳)。

(Univ. di Venezia, *Ramusio Project*, *Redazione F*, virgo.unive.it より)

F96¹ グラン・カンはいかに紙をお金として使わすか。

本当にいいですか、このカンバル市には大君の造幣所があるのですよ。そして、大[君]²⁾は完璧に錬金術を手に行っていると十分言ってもいいようになっているのです。**それを今皆さんにお示ししましょう。**

さて、彼は私が[これからお話しする]³⁾ようにしてお金を作らせることをご存じになって下さい。樹、すなわち絹を作る虫がその葉を食べる桑の樹、の皮と、その皮と樹の幹の間にある薄い膜を取らせる。そしてこの薄い膜から**パピルスのそのような紙**を作らせる。それは真っ黒だ。この紙が作られると、それを次のように裁断させる。すなわち、**小トルネセル⁴⁾の半分の価値の小さいのを作る。もう一つはやはり一トルネセルの、もう一つは銀半グロス⁵⁾の、もう一つは銀一グロス**ので、ヴェネツィア銀一グロスに値する。さらに、ニグロス・五グロス・十グロス、そして一ペザント・三ペザント、こうして十ペザントまで進む。**この紙には全て大君の印が捺してある。**彼はこれを大量に作らせるから、世界の全財宝がそれで払えるだろう。

今お話ししたようにしてこの紙が作られると、彼はそれで**全ての支払いをさせ**、また統治している全ての地方・国・領土でそれを使わせる。自分の命を失う罰ゆえ、誰もそれを拒否しようとしな。いいですか、彼の支配

下にある人々と地方⁶⁾は皆、どこへ行こうと、商品・真珠・貴石・金銀の支払いは全てこれですから、この紙を喜んで支払いに使うのです。これで何でも買うことができるし、今言った紙で支払いをする。いいですか、**十ビザントの値打ちのある紙でもその一つの重さもないのですよ。**

またいいですか、年に何度も商人たちが何人も一緒に、真珠・貴石・金・銀その他のもの、つまり金と絹の織物、を持ってやって来、その商人たちは皆これらの物を大君に贈る。すると大君は、それらの物のために選ばれそれをするのにとっても長けた十二人の識者を呼ばせる。そして彼らに、商人が持って来た物をよく見てその価値に相応しいと思われるものを支払わせるよう命じる。十二人の識者はそれらの物を調べ、その価値に相応しいと思われるところを、今お話したこの紙で彼らに支払わせる。商人は、後に大君の全領土で買い入れるもの全てに使えるから、それを喜んで受け取る。**だから間違いなくいいですか、年に何度も商人たちは四十万ビザントにも上る物を持って来、大君はそれを全てこの紙で支払わせるのです。またいいですか、貴石・真珠・金銀を有している者は皆それを大君の造幣所に持って来るべしとの布告が、年に何度も町に出るのです。そうすると、数え切れないほど大量にそこに持って来る。そして全てかの紙で支払われる。このようにして大君は、全土の金銀・真珠・貴石を手にするのです。**

さらにもう一つ、語るに値することをお話しよう。すなわち、この紙を長く持っていて破れたり痛んだりすると、それを造幣所にもって行き、新しいさらのと換えられるのだが、ただし百につき三をそのことで捨てる。もう一つ本書に語るに相応しいすばらしい理由を話そう。すなわち、一人の者が器とか帯とか他の製品を作るために金か銀を買いたいときには、大君の造幣所に出向き、この紙を持参し、**造幣所の長官から**購入する金銀の支払いにそれを渡すのです。

今、大君がこの世界の誰よりも多くの財宝を有しているに違いないしまた有しているそのやり方と訳についてお話した。が、もっとすごいことを言いましょう、この世の全君主とて大君が一人で有しているほど大きな富は持っていないのです。

さて、大君がいかに紙のお金を作ら〔せる〕⁷⁾かについて全て語り話した。今度は、大君のためにこのカンバル市から発する大権⁸⁾について述べよう。

1) 前章の事情 (Ch.95, F n.1) により、ベネデット版 F では章ナンバーはここから 1 多くなる。 2) Bn *le grant* [kaan]<グラン[・カアン]>。 3) Bn *cum je vos* [dirai]。 4) tornesel : Tours トゥール(小)銀貨、単位 dinar ディナール (It. *denaro* デナロ)。 5) gros : トゥール(大)銀貨 (=12 ディナール)。 Cf. It. *grosso* グロッソ、ヴェネツィア銀貨、単位 lira リラ。 6) Bn *jenerasion d'omes*<人種>。 7) Bn *le grant sire* [fait] *faire monoie de charte*。 8) seingnorie<権限> : 文意からしておそらく *messagieres*<使者>の誤り (cf. 次章)。

R との異なりは、大小・長短ともに多い。事実に関わるものや重要な事項にも及んでいる。他の版や内容も含めて最後に全体として見ることにする。



fait prendre chose d'arbres ad de mouir. dont les bois qui mangent les fuit
 les font la force. car il en fait tant que toutes ces contrées en sont chargées et plu
 nes de ces dis arbres. Et prennent une chose subtil qui est entre le fuit et la
 ve et se coupe grosse de bois. et est blandr. Et de celle chose font tel comme papier
 le font toutes noires. Et quant ces chartres sont faites. à les font tendre e
 tel manier la mouir d'auz. et l'autre un peu plus grant. Et l'autre un peu plus grant
 un conseil. Et l'autre un peu plus grant d'auz. et l'autre un peu plus grant d'auz. Et
 l'autre d'auz un peu plus grant d'auz. et l'autre d'auz. b. gros. et l'autre d'auz. b. gros
 et l'autre d'auz. et l'autre un peu plus grant d'auz. et l'autre. u. le sans d'auz. et l'autre. u. le
 sans d'auz. et l'autre quatre le sans. et l'autre anq. Et ainsi vont toutes a. x.
 le sans d'auz. et toutes ces chartres sont selles du sel du seigneur. Et ainsi en
 fait faire à grant quantité d'auz. au qui nens ne lui compte qu'il en fait
 tout le trésor du monde. Et quant ces chartres sont faites en telle ma
 niere que ne tous au compte. et en fait faire tous les papiers et les fait
 descendre à d'auz par toutes les provinces et par tout les royaumes et par toutes
 les terres. et par tout où il a pource ne s'aigne. et nuls si d'auz comme il a
 la vie ne les ont refusé. car il doit des maintenant nus a mort. et vous dy
 que d'auz les pout vouloir pour ce que la ou il vont tous la s'aigne
 ne du grant haan les descendent et font sans papiers des marchandises
 que il adate et vendent aussi bien comme de il seussent de fin or. Et encore
 quelles sont si légères que ce qui mult de le sans d'auz ne pout pas un. Et en
 core s'adnes que tous les marchans qui viennent d'ind ou d'autre pays qui
 portent or argent ou pierres ou pelles ne les osent venir vendre a nul autre
 en ceste ate que au seigneur. Et il a. m. latons d'auz sur ce seigneur les s'
 mes et congnoissans de ce faire. Si que ceulx les pout et le seigneur les s'
 fait payer bien et largement de ces chartres. et ceulx les pout moult
 vouloir. car il n'ont trouvoient pas tant de nul autre. Et l'autre est pour
 ce que il sont paires des maintenant. Et encore qu'il pout avoir pour
 ceste monnoie tout quantes il veulent par tout. et est aussi plus léger
 a porter. Si que le seigneur en adate tant d'auz au que est sans fin du
 grant trésor. et les paires de chose qui nens ne lui compte. si comme tous auz
 entendent. Et encore que plusieurs fois en lan va son lan par la cite que
 d'auz qui auz au et argent ou pierres ou pelles. les porte ala seque. et
 il les fera bien payer et largement. Si que il les portent volontiers pour ce
 que il ne trouvoient qui tant leur en donnast. Et en portent tant que
 est manuelle. et qui ne les deult porter si demeur. Si que en ceste maniere
 a tout le trésor de les terres. Et quant de ces chartres sont gastes auans
 non pourquant sont elles meut durables. si les portent ala seque et en
 laissent trois du cent de change. si prennent nouvelles. Et en ceste maniere
 ou autre pource qui qu'il faut ceste maniere d'or ou d'argent ou de pierres

ou de pelle pour faire taillielement ou autres rixes. dy les. si vult ala se que. et adarent de ce tant comme il vullent et pient de ces durtetes. Or vous a compte la maniere et la raison pour quoy le grant sire doit avoir a plus de telor que tous aultre du monde. dont vous aux bien oy et entendu comment et la maniere. Si vous deviseray ore grans seigneuries qui de ceste cite pient pour le grant sire. **Or deviseray des douze laons qui sont**

sous toutes les dyces du grant haan.

Ora lachies que le grant haan a elais. .xii. grans barons. Aux quels il adonnus que il soient sur toutes dyces resonnables qui courent et l'engne a. .xxiii. grans provinces et vous deviseray leurs manieres et leurs establissemens. Sachies tout verement que ces .xii. laons demeurent tous ensemble en un moult beau palais et nide. qui est dedens la cite de cantaluc et plusieurs dambres et plusieurs palais. et d'elaine province si a un nige. et plusieurs clamaans. et tout demeurent en ce palais d'elaine en la maison par soy. Et celui nige et ces clamaans si sont toutes dyces qui l'engnent ala province a qui il sont depute. et cest par le commandement de ces douze barons. Et encore plus quant le fait est que. il le font savoir aux .xii. barons et au seigneur et puis fait ce que lui semble le mieux. Or vous deviseray ces .xii. laons ont si grant seigneurie que il estent les seigneurs de toutes ces .xxiii. grans provinces que ie vous ay cy dit. Et quant il sont elais tel qui leur semble qui soit bon et confortant si le font savoir au seigneur. et il les confirme et fait donner table de telle comite a la seigneurie appartient. Et encore ont tant de seigneurie ces .xii. laons que il peuvent que il pourroient la ou il est bon que les oles voient. Et les amoient la ou il leur semble que mestier en soit et telle quantite comme a besoing. mais toutefois est ala seigneurie du seigneur. mais il en font ce que il vullent. et sont appelle seing qui vult a dire la court greignour. le palais la ou il demeurent et ausly appelle la court greignour. Et cest bien la greignour seigneurie qui soit en la court du seigneur le grant haan. Car bien ont le pouvoir de faire du bien a qui il vullent. les .xxiii. provinces ne vous compteray pas ore par nom pour ce que ie les vous compteray en nre lre tout appartenant. Or vous deviseray a compter de ce et vous compteray comment le grant sire envoie ses messaiges et ses courriers. et comment il ont les dixaulte ap parilles pour tost aller.

Comment le Grant Kaan fait despendre pour monnoye **escorce d'arbres, qui semblent chartretes, par tout son pays.**(1)

Il est voirs que en ceste cité de Cambaluc est la seque du Grant Sire; et est establee en tel maniere que l'en puet bien dire que le Grant Sire en a l'aquest⁽¹⁾ parfaitement et selonc raison; car il fait faire une telle monnoie comme ie vous diray.

Que il /45v/ fait prendre escorce d'arbres, c'est de mourier, dont les vers qui menguent les fueilles font la soie, **car il en y a tant que toutes ces contrees en sont chargies et plaines de ces dis arbres**(2). Et prennent une escorce soubtil qui est entre le fust de l'arbre et l'escorce grosse **dehors; et est blanche**(3). Et de celle escorce soustil comme papier le font tuites noires. Et quant ces chartretes sont faittes, si les font trenchier en tel maniere: la mendre vault demy tonsel; et l'autre, un peu greigneur, si vault un tonsel; et l'autre, un peu plus grant, vaut demi gros venisien d'argent; et l'autre vault un gros venisien d'argent; et l'autre vaut .V. gros; **et l'autre .VI. gros;** et l'autre dix gros; et l'autre un besant **d'or; e l'autre .II. besans d'or;** et l'autre .III. besans **d'or; et l'autre quatre besans; et l'autre cinq**(4). Et ainsi vont jusques a .X. besanz **d'or.** Et toutes ces chartretes sont sellees du seel du Seigneur. Et ainssi en fait faire si grant quantité **chascun an, qui riens ne lui couste**(5) qu' il en paieroit tout de tresor du monde.

Et quant ces chartretes sont faittes en telle maniere que ie vous ay compté cy, si en fait faire tous ses paiemens et les fait despendre a chascun par toutes ses prouvinces et par tout ses regnes et par toutes ses terres et par tout ou il a povoir ne seigneurie. Et nulz, **si chier comme il a sa vie,** ne les ose refuser, **car il seroit desmaintenant mis a mort.** Et vous dy que chascuns les prent volentiers, pource que la ou il vont, soubs la seignourie du Grant Kaan, les despendent et font leur paiemens des marchandises que il achatent et vendent aussy bien comme se il feussent de fin or. Et encore quelles sont si legieres que ce qui vault dix besans d'or ne poise pas un.

Et encore sachiez que tous les marchans **qui viennent d'Inde ou d'autre pays,** qui portent or, argent ou pierres ou pelles, **ne les osent** [~~vent~~] **vendre a nul autre en ceste cite que au Seigneur**(6). Et il a .XII. barons, **esleus** sur ce, saiges hommes et congnoissans de ce faire, si que ceulx les prisent et **le Seigneur** les fait paier **bien et largement** de ces chartretes. Et ceulx les prennent moult volentiers, **car il n'en trouveroient pas tant de nul autre; et l'autre est pource que il sont paies des maintenant**(7); et encore qu' il peuvent avoir pour ceste monnoie tout quanque il veullent par tout; **et est aussi plus legiere a porter: si que le Seigneur en achate tant chascun an que c'est sanz fin grant tresor et les paie de chose qui riens ne lui couste**(8), si comme vous avez entendu. Et encore que pluseurs fois en l'an va son ban par la cite: que chascuns qui aura or et argent

ou pierres ou pelles, les porte a la seque, et il les fera bien paier **et largement**. Si que il les portent volentiers, **pource que il ne trouveroient qui tant leur en donnast**; et en portent tant que c'est merveille; **et qui ne les veult porter, si demeure**(9). Sy que en ceste maniere a **tout le tresor** de ses terres.

Et quant de ces chartretes sont gastees aucunes, **non pour quant sont elles nient durables**, si les portent a la seque, et en laissent trois du cent de change, si prennent neuves. Encor, se **autre baron** ou autre personne, qui qu' il feust, eust mestier d'or ou d'argent ou de pierres /46r/ ou de pelles, pour faire vaissellemente ou autres riches choses, si vait a la seque et achatent de ce tant comme il veullent et paient de ces chartretes.

Or vous ai compté la maniere et la raison pour quoy le Grant Sire doit avoir, et a, plus de tresor que tous ceulx du monde, dont vous avez bien oy et entendu comment et la maniere. Si vous deviseray ore grans seigneuries qui de ceste cite yssent pour le Grant Sire.

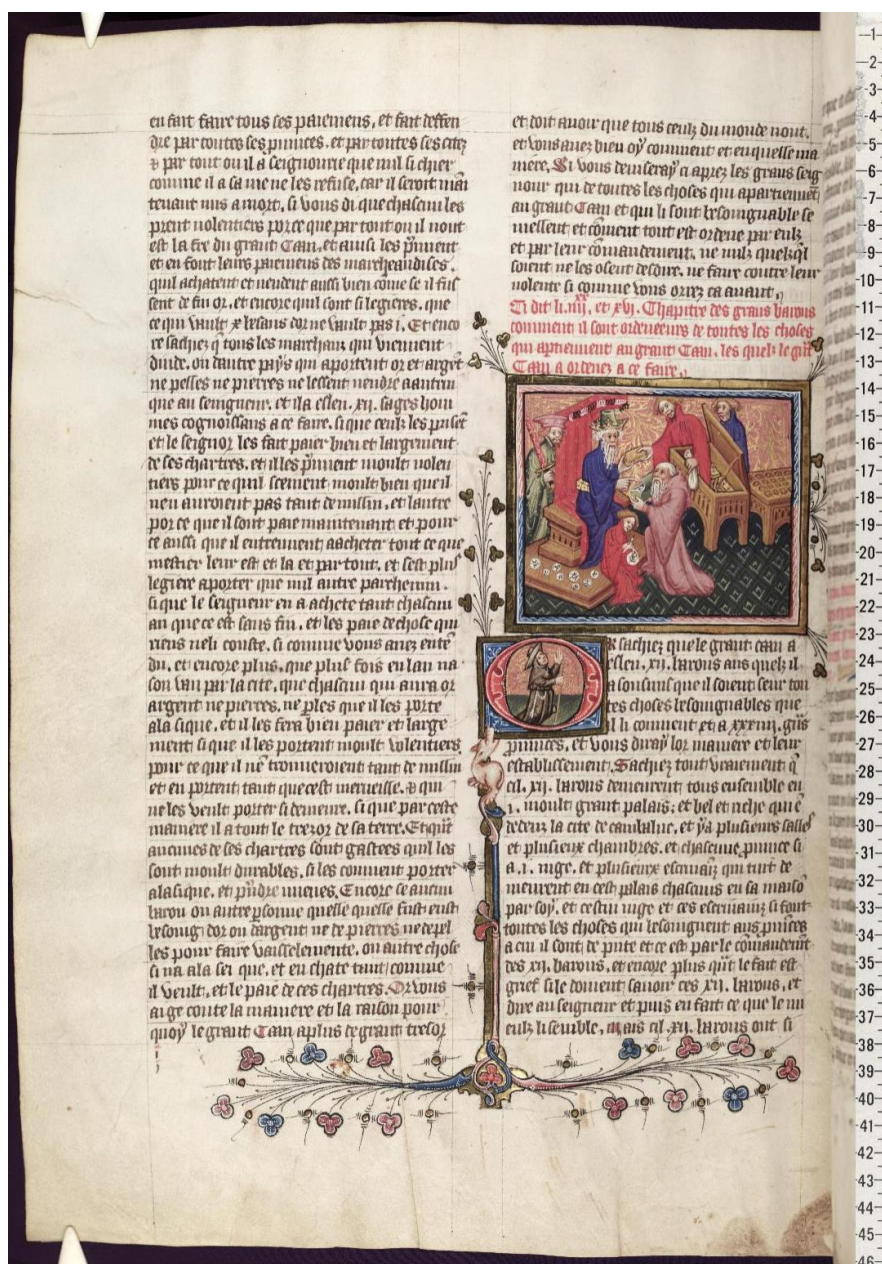
1 l'aquest: FA1 *l'aquelmie*, Pauthier *l'arquenne* (l'arcane des alchimistes <錬金術師の秘法>).

主な異なり箇所：

- (1) タイトル「いかにグラン・カアンは、**証紙のような木の皮を自分の国中で**お金として使わせるか」。
- (2) 桑の木は、「**どの地域もそれで満たされその木でいっぱい**なほどたくさんあるからだ」。
- (3) 木の幹と**外側の**厚い皮の間の薄い皮を取るのだが、「それ（薄い皮）は**白い**」。
- (4) 「1 トルセネル…5 ヴェネツィア・グロス銀貨、**同 6 グロス**、1 ベサント金貨、**同 2 ベサント金貨…同 4 ベサント、同 5**」。
- (5) 「彼は**毎年全く費用の掛からぬ**ままかくも大量に（紙幣を）造らせるから」それで世界の財宝が全て購えるだろう。
- (6) 「金・銀・宝石・真珠をもって**インドや他の国からやって来る**商人は皆、この市ではそれを**大君以外の者に**売ること**はない**」。
- (7) 商人は紙幣を喜んで受け取るが、「**それほど多く払ってくれる者は他にないし、もう一つにはすぐに支払われるからである**」。
- (8) このお金で何でも買うことが出来るし、「**持ち運ぶのにより軽いからである。こうして大君は毎年莫大な財宝を際限なく買い入れ、しかもそれを彼には一切費用の掛からぬもので支払うのである**」。
- (9) 皆が自分の宝物を造幣所に持って来るのは、「**かくも気前よく支払ってくれる者は他にないからである。…それを持って行かない者はない**」。

これらの異なりが、最初あったのが F で抜け落ちたのか、それとも FA で加えられたのか確定するのは難しいが、(3) と (4) 以外は、そこに述べられていることの敷衍や強調や繰り返しであることからして、訳者によって補われたものである可能性が高い。事実に係る (3) と (4) は、他の版にあるかどうかを見る。

【参考】FB2 : Oxford, Bodley 264, f. 242v.



onnoh tu longnio dentro. Et apella l'una fa fare carte co
 me q' bandagia et sono tutte nove grande queste carte sono
 fatte cose ogh. nefa d'ella puzolo q'ona gheno una medaglia
 q'tornafello piccholo et l'altra d'ale intornafello et l'altra d'a
 le d'urroffo d'arigento d'adinegia et l'altra d'un mezzo et l'altra
 due grossi et l'altra v. et l'altra x. et l'altra d'un bianto d'oro et la
 ltra due et l'altra tre et cose va infino in x bianti. et tutte qe
 ste carte sono signellate q'el signello del gran sire come fa
 to fare tante q'etutte il suo tesoro ne pagheranno et quando
 queste carte son fatte ogh. nefa fare tutti gli pagamenti et fa
 ogh. spendere tutto lo poduno et rengr. et terre d'uegh. ac
 d'ingnorio et nessuno cosa rifiutare appena della vita et
 p'ndego et tutte cose et rengr. se sono sotto sua signoria
 Supra q' apella moneta d'eng. mercatantia ap'la d'oro et da
 niente et d'argento prezioso et generalmente d'eng. altra cosa
 et sui. d'oro della carta q'essi mettono x bianti n'uno pofo
 no et sui. d'oro q'essi mercatantia lo puo d'ale q'ebiano questa
 moneta ap'la oaro calce q'esse q'are et molto d'alta o resta
 to al gran sire q'oh mercatantia q'ando ecco q' bianti algra
 n'uno et tutte paghare ap'la carta et mercatantia lo puo
 hano volentier. q'eng. lo spendono tutto il pofo et molto do
 lo fa vendere il gran sire q'eng. n'uno q'are oaro cariento
 q'lo sparte prezioso o alq'una altra q'ara q'essa q'eng. n'onta
 nente l'adobbano anco a presentata alla tavola del gran sire
 et d'ogh. lo fa paghare ap'la carta et tanto gheno viene
 d'ap'la mercatantia q'ee d'un miracolo et grande alq'uno
 prompto q'ua q'essi niuna d'ap'la carta ogh. va alla tavola
 del gran sire et ingentamente ghelo q'ambia oogh. data bella
 et nuoba mas' gheno la sua tra p' cento anq'ora fa p'nto q'he
 per alq'uno uoluto d'assellamento d'ariento osintura ogh. va
 alla tavola del gran sire et d'ogh. dato il pofo carta ariento
 quant'uno vuole q'ontandosi. lo q'ante se g'ende q'essi. spendono

Et questa e l'aragone p'che il granfite dea anore p' o no
opine oriento e g'inguro delmonde Et s'hi. d'igo ch'et'ant' d'hi
singnory delmonde nonnanno tanta ricchezza quante a' l'ora
negano solo ordo chentato della moneta dello r'arto ordo. Con
tutto della singnoria della città e Chamblau

De'gh. xij barony ch'epno sopra ordinare tutto
l'ochopo delgranthane

O Esappiato veramente ch'el granfite a xij barony e'oluy grandissim
et qu'och p'no sopra tutto l'ochopo ch'el'ingniano a xxxij po
vint' et d'ndy loro maniera et loro ordinament' et prima di
d'igo e'og'ost xij barony i'fanno innunpalagio dentro acham
blau o molto bello et grande o molto p'lo et molto mago
ny et e'omero e'innas'una p'ovincia a' d'no p'rchuratore et
g'ol' i'fanno in qualpalagio Et e'as'g'uno i'fuo palagio et g'o
fi p'rchuratori et g'ost. i'fanno f'anno tutte g'olle e'ose g'o
fanno b'ingnio a'g'olle p'ovincia a'g'ny o'ch p'no d'putat' et
g'ost f'anno p'ole g'omandament' de xij barony f'anno tal
singnoria e'omio d'no e'och alle g'og'one tutti g'is'g'io
d'g'olle p'ovincia e'io de d'no d'p'ra et quando e'och p'no g'io
ato qu'och e'g'ol' p'ano e'g'io. g'hor' e'g'io. il d'no p'no
negano e'och g'is'g'io. et f'och e'g'io. tando d'no e'g'io
a'f'no singnoria p'ovincia a'g'ora g'ost xij barony f'anno an
dare l'ost e'och p'ovincia et e'omio et della p'ovincia e'och
d'ny e'ose f'og'one. l'and'anta del'ingnoro Et e'omio d'no d'g'io
ost d'no e'ose e'och d'no d'g'io e' tutto l'altra e'och p'ovincia a'g'io
l'le p'ovincia et g'ost f'og'io. l'and'anta mag'io et e'ose
nella e'omio del'ingnoro p'no e'och anno g'and' p'ovincia
e' f'ore d'no a'g'ny e'g'io. d'g'io. l'ep'ovincia e'och e'och
p'no p'no p'no l'ep'ovincia p'ovincia in g'ost l'le et e'och
ro d'no e'omio il granfite manda messag'io et e'och anno g'io
d'g'io. appar'g'io.

Chome a' Chamblau spartano molto messag'io
p'andano i'no l'le p'no

+ + +

Della moneta del Gran Chane.

Egli è vero che in questa citta di Chamblau è la **tavola**(1) del Gran Sire; e è ordinato in tal maniera che l'uomo puote ben dire che 'l Gran Sire àe l'archimia perfettamente; et mostrerolovi inchontanente.

Or sappiate ch' egli fa fare una chotal moneta chom'io vi diro: et fa prendere ischorza d'uno albore ch'a nome gelso; è l'albore le chui foglie mangiano li vermi che fanno la seta; et cholgono la buccia sottile ch' è tra lla buccia grossa e l'albore, /39r/ **o vuoi tu**(2) lengnio dentro, et di quella buccia fa fare charte **chome di banbagia**(3); et sono tutte nere. Quando queste charte sono fatte chosi, egli ne fa delle picchole, che vagliono una **medaglia**(4) di tornesello piccholo, et l'altra vale un tornesello, et l'altra vale un grosso d'argento da Vinegia, et l'altra un mezzo, et l'altra due grossi, et l'altra V, et l'altra X, et l'altra un bisante **d'oro**, et **l'altra due**(5), et l'altra tre; e chosi va infino in X bisanti. Et tutte queste charte sono sugiellate chol sugiello del Gran Sire; et anno fatte fare tante che tutto il suo tesoro ne pagherebbe.

Et quando queste charte son fatte, egli ne fa fare tutti gli paghamenti, e fagli ispendere per tutte le provincie et regni et terre dov'egli hae signoria; et nessuno gli osa rifiutare, a pena della vita. Et si vi dichio che tutte le gienti et regni che sono sotto sua signoria si paghano di questa moneta d'ogni merchatanzia di perle, d'oro et d'ariento et di pietre preziose, **et gieneralmente d'ogni altra chosa**(6). Et si vi dichio che lla charta, che ssi mette per X bisanti, non ne pesa uno; et si vi dichio che gli merchatanti le piu volte chanbiano questa moneta a perle o a oro e altre chose chare. Et molte volte è rechato al Gran Sire per gli merchatanti [1] che vale CCCCm di bisanti; e 'l Gran Sire fa tatto paghare di quelle charte, e merchatanti le pigliano volentieri, perche le spendono per tuto il paese.

Et molte volte fa bandire il Gran Chane che ogni uomo che àe oro e ariento o perle o piere preziose o alchuna altra chara chosa, che inchontanente la debbiano avere apresentata alla tavola del Gran Sire, et d'egli lo fa paghare di queste charte, e tanto gliene viene di questa merchatanzia, **ch' è un miracholo**(7). Et quando ad alchuno si rompe o guastasi niuna di queste charte, egli va alla tavola del Gran Sire, e inchontanente gliene chambia, e è gli data **bella**(8) e nuova; ma si gliene lascia tre per ciento. Anchora sappiate che, se alchuno vuol fare vasellamenta **d'ariento**(9) o cinture, egli va alla tavola del Gran Sire, **ed è gli dato per queste charte ariento quante ne vuole, chontandosi le charte secondo che ssi ispendono**(10). /39v/ Et questa è la ragione perche il Gran Sire dee avere piu oro e piue ariento che singnore del mondo. Et si vi dichio che tra tutti gli singnori del mondo nonn anno tanta ricchezza quanto àe il Gran Chane solo.

Or v'ho chontato della moneta delle charte; or vi chontero della singnoria della citta di Chamblau.

1 Ruggieri [*tanta mercatanzia in oro e in ariento*]＜(商人は)たくさんの金や銀の商品＞(をグラン・カンのところに持ち込んだ)。

いつもながらの要領のいい要約である。FAのように言葉を飾り文を膨らますことはなく、簡潔にはなったが、筆者たちの熱意が伝わってこないことも否定しがたい。異なりというほどでもないが：

(1) **tavola**＜テーブル＞：金融商や両替商の‘カウンター’、ここでは F *secque*＜造幣所＞に同じ。

(2) **o vogli tu**=*ossia*＜つまり＞。

(3) **carte come di bambagia**＜綿からのような紙＞：carta di papiro＜パピルス紙＞に対して。TAの訳者は製紙法にある程度通じていたか。

(4) una **medaglia** di tornese gli picculi＜1 小トルネセル硬貨＞：moneta＜お金＞は本来‘硬貨’のことであるが、ここでは moneta di charta＜紙のお金＞との混同を避けるため。

(5) l'altra un bisante **d'oro**, e l'altra II「もう一つは**金** 1 ビサンテ、さらにもう一つは(金)2 (ビサンテ)」：d'oro＜金＞は本来あってしかるべきで、Fでは抜け落ちていた。l'altra II＜もう一つは2 ビサンテ＞は、Fになく FAにあった。とすると、最初からあった可能性が高くなる。

(6) … **et gieneralmente d'ogni altra chosa**「真珠・金・銀・宝石その他全般にあらゆるもの」：あらずもがなの書き加え。

(7) … **ch' è un miracholo**「これら商品が、奇跡のように彼の下に集まってくる」：要約に伴う言い替え。

(8) èe gli data **bella** e nuova「**綺麗**で新しいのが与えられる」：あり得てよい。

(9) **vasellamenta d'ariento** o cinture＜銀の器や帯＞：帯はおそらく *cinture d'oro*＜金の帯＞だったであろうが。

(10) … egli va alla tavola del Gran Sire, **ed è gli dato per queste charte ariento quante ne vuole, chontandosi le charte secondo che ssi ispendono**「… 彼は王の造幣所に行く。すると、その者がこの紙で支払う分に応じて銀がほしいだけ与えられる」：Fとは別の視点から書き換えられている。

Da oxelando e chazando espelzando y infra alla zeta chome, od in
de chimbeldu in

Cap^o lxxvii

Ovando. che zonto milazeta de chimbeldu el fa gron feta e
choite tie di mpo maestro palazo In questa zeta de chimbeldu e
gron moltitudine de chaxe. Espiate veramente che de fuora e chaxe
e palazi altro si belli chome e quelli del signor et ene dodex porte
de fuora de zaphun porta e uno borgo molto grande. In questi
borgi alberga merchadanti e forestieri e altra zente grandissima e
molta zente vien a questa zeta araxum della choite del signor
et delle gron merchadante che sonu portade a questa zeta in questa
zeta no se se prusse nuono morto. e quando muor alizano quella d'olati
esi portade a ardere de fuora de chimbeldu / per la grande moltitudine
de forestieri che passano per questa zeta el gene bon. Omnia percha
terze legittime non oia nuona sta dentro d'alzeta ma fanno de fuora
entro i borgi. L'altura de d'ogni chel non e intera del mondo doue se por
ta tante pietre preziose epielle epielle epielle chate altre merchadante
chome in questa et de chimbeldu d'ogni d'ogni della prouincia de chimbeldu et de
mangi et delle altre prouincie d'ogni. ne e zeta de al mondo la doue se
faza signor merchadante. Questo e per la choite del gron chom e
per la gron moltitudine della zente che meteno chom in questa zeta
e perche la zeta e l'altor bon luogo et e in mezzo de molte prouin
zie. E perche el fa sta sempre ote grande araxum del signor. E
spiate che zaphun zorno entra in questa zeta plu de mille ch
rete chaxe de chimbeldu che in questa zeta se fa gron laura de d'ogni
doro et de chimbeldu il zente delle chaxe d'ogni vien in questa zeta per
tute chosse libexogiano. E pero sege d'ogni d'ogni e chusi grandissima
quantita de merchadante in

Cap^o lxxviii

El gron signor fa far moneta a questo mundo el fa far
la phura pohi del more quella che dentro la phura gropa
ello legno et de quella faza chate amodo de quelle de papero
et de uentano hite negre e poi la fa tair al muodo de denari. alchuno
e pizolo amodo d'uno bontex pizolo. E alchuno val tanto quanto
un venizum grosso. E alchuno val do grossi venizum e alchuno
val cinqu venizum e alchuno d'ogni se alchuno val vno bexanti du
ro alchuno do alchuno tie. E chusi montano fma a d'ogni bexanti
doro. E zaphun de questi denari e stampato chom el signale e chom
la stampa del re. E faza questa moneta in la zeta de chimbeldu per
che li sono deputade azio per loro. Enom per alchuno. E chusi fesse.

el chontinziu perdezia lauita. E sinefta mfi gemidifima diuinita che
 fe porzau chonpraz tuto el texpoto del mondo. E siue digu che puxor fia
 te almo azeuem puxor merchadanti mfieme che aduxero tante palle e
 pieze prezioze coru e argento che val ben quatrocentomile bixanti
 doro. E prefentauo quefte chaffe al signor efmo ftradi pr dodeze fa
 uij homer deputadi a zo pr lo gram cham. E fmo pagadi de quella mo
 neda. E chonprimu altre merchadante e portabli. Infoe chontia / o
 altione doue Juoleno pr guadagnaz. E quefta moneda falo lui
 spradi pr tutte prouinzie e regnumi etze che fono fola laua seg
 nora. E puo che tze che no iobedifano alui che non pcedano que
 fta moneta. Ja neguno tzeruo foreftiero non offa refudar. quefta
 moneda. E chi la refudaffe fceua apertolo della ptefona. mnta
 vederu che puxor fide almo el fi comandaze in chimbela che
 tuti quelli chamo argento coru e pieze prezioze le diebano portare
 al texpoto. E poi et e molto ben obedito e fi pagadi de quella mo
 neda. E zafthimo la mola uolentiera. E pr quefto mudo fe fi por
 tar el gram cham la maior parte del texpoto che inua fignoria.
 E in quefto pode uede chi po auz el mure texpoto che o mudo
 che fia al mudo. Enom li cofa niente. Vnde el po ben fare lefpree
 mezuue gioze. E zafthaduno chom vien apraz quelle monede
 dallu.

Cap lxxviii

E lgram. cham a alui fi dodeze baroni equali clo arbo
 mello lafu autoritade aproueder. quello che bixogna de or
 denare de far fopra trentaquattro prouinzie. E quefti demorano
 ghinua mente in uno gram palazzo che in chimbela che molto
 grande e bello chom molte falle e camere. E mo quefti baroni
 chadamar prouinzie uno dodeze emoli noddaz. Et obediſſe que
 ſti baroni in quello che Juoleno proueder in el pto ofizib fe chondo
 che bixogna ale prouinzie alequal Teno deputati. E fmo quelli za
 dexi enodaz choninuamente in quel palazzo. E zafthimo apra cha
 ra in quel palazzo quefti baroni elegeno e queſti che diano eſte ſig
 nori in queſte prouinzie. E mlezitide la o munda ſignori pr el
 gram cham. E poi fmo ofte made plufignori. E fi fadadu tnuola
 doro et de argento fe chondo che dxanza della por chorte / mto
 za e queſti baroni aproueder de loſte ladoue Tdiero mndaz fta.
 E dote le altre coſe che aprithem al regimento e ala ſignoria de
 ſignori ora tuti fmo pr ſuputa del ſignori queſti baroni ſono
 apellati ſcieng che vuol dir la chorte maza / doue Tdemuzano

Cap. LXXVIII

El gran signior fa far moneda a questo muodo: el fa tuor
la schorza sotil del more, quella ch'è dentro la scorza grossa
e llo legnio, et de quella fa far charte a muodo de quelle de papiro;
et **deventano** tute negre, e poi le fa taiar al muodo de denari. Alchuno
05 è **pizolo** a muodo d'uno tornexe pizolo, e alchuno val tanto quanto
un venizian grosso, e alchuno val do grossi veniziani, e alchuno
li val zinke veniziani e altri diexe, e altri val uno bexante **d'o-**
ro e altri do e altri tre; e chusì montano fina a diexe bexanti
d'oro. E zashuno de questi denari è stanpito chon el signiale **e chon**
10 **la stanpa** del re. **E fi fata questa moneda in la zità de Chanbelu, per-**
ché 'li sono deputadi a ziò per lo re e non per altri(1). E chi fesse
el chontrario perderia la vita. E sî ne fa in sî grandissima quantità ch'el
se porave chonprar tuto el texoro del mondo. E sî ve digo che piuxor fia-
te al'ano ge vien piuxor merchadanti insieme, che aduxeno tante perlle e
15 piere prezioxe e oro e arzeno che val ben quatrozentomilia bexanti
d'oro, e presentano queste chosse al signior, e fino stimadi per dodexe sa-
vii homeni deputadi a zò per lo Gran Chaan, e fino pagadi de quella mo-
neda. **E i chonprano altre merchadantie e portalle in soe chontrà o**
altrove dove i voleno per guadagniar. E questa moneda fâl[a] lui
20 spender per tute provincie e regniami e tere che sono soto la soa seg-
noria. **È puoche tere che non i obedisano a lui, che non spendano que-**
sta moneta. In neguno tereno **forestiero** non ossa refudar questa
moneda, e chi la refudasse serave a pericolo della persona. Ancora
ve digo che piuxor fiade al'ano el fa comandare **in Chanbelu** che
25 tuti quelli ch'ano argento e oro e piere prezioxe, le diebano portare
ai **trexorieri** soi. Et è **molto ben obedito**, e fi pagadi de quella mo-
neta, e zashuno la tuol volentiera. E per questo muodo **se fa por-**
tar el Gran Chaan la maor parte del texoro ch'è in soa signoria.
E in questo podé veder ch'el pò aver el mior texoro che omo
30 che sia al mondo, **e non li costa niente**. **Unde el pò ben far le spexe**
meravegioxe, e zashaduno chonvien conprar quelle monede
da llui(2).

第78章 グラン・カンのお金について。

大君は次のようにお金を造らせる。桑の木の薄い皮、つまり厚い皮と幹の間にあるのを取らせ、それからパピルスのように紙を作らせる。それはすっかり黒くなり、その後それをお金の形に切らせる。あるものは1小トゥールーズ貨のように**小額で**、あるものは1ヴェネツィア・グロッソ、あるものは2ヴェネツィア・グロッソ、あるいは5あるいは10、また別のは**金1ペサンティ、あるいは2あるいは3の価値がある**。こうして**金 10 ペサンティ**まで至る。このお金のどれにも王の印しと判が捺してある。**このお金はカンベル市で造られる。彼らはそれを他からではなく王から委任されているからである(1)**。違反する者は命を失うだろう。物凄く大量に造るから、王はそれで世界の金財宝を買うことができるだろう。

また言うと、年に何度も多数の商人がやってきて、**金 40 万ペサンティ**もの値打ちのある真珠・宝石・金・銀を持ち来たり、それを君主に差し出し、グラン・カンからその役目を負わされている 12 人の賢人によって評価され、この金で支払われる。**彼らはそれで他の商品を買ひ、それを自分の地域か望む所に持って行って稼ぐ**。このお金を彼は、支配下にある全ての地方・国・土地で使わせる。**彼に従わず、この金を使わない地方はほとんどない**。いかなる他国の領土でもこの金が拒否されることはなく、拒むものは命の危険にさらされる。

またご存じありがたいが、彼は年に数度**カンベルで**、銀・金・宝石を持っている者は皆それを彼の**財務官**のところに持って来るよう命じさす。**とてもよく従われ**、この金で支払われ、皆喜んでそれを受け取る。このようにしてグラン・カンは、自分の統治下にある財宝の大部分を**持って来させる**。彼がこの世の誰よりも多くの財宝を手にすることができ、**しかも一銭もかからないことがこれでお分かりだろう。だから彼は驚くべき出費ができるのであり、それぞれ皆この金を彼から買わねばならないのである(2)**。

異なりは多いが、TA のごとき忠実な要約ではなく、組み換えや書き替えから結果するまとめであり、新たなことはない。

(1)「**このお金はカンベル市で造られる。彼らはそれを他からではなく王から委任されているからである**」は、F では冒頭の「このカンバル市には大君の造幣所がある」と、直前の「この紙には全て大君の印が押してある」を結び付けて書き換えたもの。

(2)「**しかも一銭もかからない…。だから彼は驚くべき出費ができるのであり、それぞれ皆この金を彼から買わねばならない**」: F 後半の、持参された財宝を大君が紙のお金で買い取るやり方を、「一銭もかからない」 non li chosta niente (この表現は F にはないが、FA にはある) ことを強調して言い替えたものである。

regali palatio. Deinde
qui ad hec vocati fuerat
ad propria revertuntur.

De Moneta magis ka
am et de inextimabili
copia diuitiarum c. Ca. xxj
Moneta regalis magis
kaam hoc modo fit
de tribus cornibus arboris
inter accipit cornices me
dianos qui efficiunt et soli
dantur ut folia de papuo
deinde per particulas ma
gnas et quas ad denari
orum similitudinem madunt atque
regali signo ciunt et ip
sunt eis signa nazia iuxta
quod huius pecunie ualutia est
Valz aut prius denarius
ad ualorem uel precium
prius tizonem. Alius ma
ior ad ualorem dimidijs
si. Tertius ascendit ad ve
netos duos. Alius ad quatuor
quod. alius uero ad decem. De
hac igitur pecunia facit fieri
rex in copia maxima in ciui
tate Cambalu nullique sub
pena mortis in omnibus fecerit

regni sue diuonum subditis
monetam aliam facere aut
expendere licitum est aut hanc
recusare. Nullus enim dea
liis regibus intra terras ma
gnum kaam monetam aliam
perpendere. Solum autem of
ficiales regis monetam
hanc faciunt de regis ma
gnitudine. Sepulchre uero ne
gociatores de diuersis re
gionibus uenientes. Cam
balu deferunt aux et arge
tum margaritas et lapides
preciosos que omnia rex per
suos officiales cum facit
et de moneta sua solutio
fit. Si negotiatores sunt
de gentibus nationibus ubi
moneta non currit quique co
mutant in alias mone
tas et ad suas deferunt
nationes et regiones propter
quod ipsa moneta a nullis
negotiatoribus recusat
In super et sepe mandat
rex in ciuitate Camba
lu ut quicunque aux arge
tum habet aut lapides pre

iosos sine officialibus q̄ citis xij. qui xxij. p̄uicillit
exhibere studeant et eis de p̄fecti quoz e offm elige
le moneta illa sedm exi
natione debitam p̄uide
ur qd absq̄ dilatione sit
et sine eoz detrimēto. Sic
p̄ eoz indemnitati caue
ur et p̄ p̄t p̄t hūc mo
luz thesauros infinitos &
dumrabilēs cōgregare.
De hac moneta sine exa
tibus & officialibz stipen
ia tribuit et quicq̄ pro
una necessariū est emitur
manans em igit̄ pecuniā
nichilo h̄t et i hūc mod
raifeste app et q̄ magnis
aam in expensibz diuitis
& thesaurus uniuersos mudi
imāpes supare p̄t. Max
p̄ter omnes a curia eius
monetam emē q̄ ita cōn
ine custodit̄ ut indefia
nter ad om̄s q̄ eam emē
colūt h̄ndantissime dif
fundat̄. De duodecā p̄e
ecti p̄uicillit et offō ac p̄allo
abet maḡ eoz. Ca. xxij
Quis kaam barones

qui xxij. p̄uicillit &
p̄fecti quoz e offm elige
duos rectores et officiales
in p̄uicillit memoratis et eaz
Cūitatibz. H̄nt et regis
exercitiis de locis ubi ha
bitare annuatim debeant
p̄uidere. Omnia q̄ disponē
infirmitate et ille sua
auctoritate affirmat q̄ illi
dixerint statimenda. Vocā
tur aut̄ scieng. i. officiales
curie maioris. Quis multas
grās multa q̄ b̄nficia mul
tis cōferre p̄t p̄ qd i maḡ
honore h̄ntur ap̄lis. H̄oz
bitatio in quodam palatō
magnis est in cūitate &
Cambait̄ eoz offō depu
tato. Vbi s̄t pro eis & officia
libus ac ministris eoz
aule camē et cet̄ p̄ eoz
comodo officine. H̄nt aut̄
assessores iudices et nōuas
qui cōsulendo & scribendo
eoz mādāt et offō suffia
gant. De cursoribz magni
kaam et militū chē et ordie
māsiem̄ p̄ ip̄oz r̄ceptōe. C. xxij.

De moneta Magni Kaam et **de inextimabili copia divitiarum eius**. Capitulum XXI.

Moneta regalis Magni Kaam hoc modo fit: de **tribus** corticibus arboris mori accipiunt cortices **medianos** qui conficiuntur et **solidantur** ut folia de papiro, deinde per particulas magnas et parvas ad denariorum similitudinem inciduntur atque regali signo cuduntur, et imprimuntur eis signa varia iuxta que **huiusmodi pecunia valitura est**. Valet autem parvus denarius ad valorem vel precium parvuli turonensis; alius maior ad valorem dimidii grossi; tertius ascendit ad venetos duos; alius ad quinque; alius vero ad decem.

De hac igitur pecunia facit fieri rex in copia maxima in civitate Cambalu, nullique sub pena mortis in omnibus fere |45d| regnis sue ditioni subditis monetam **aliam facere aut expendere** licitum est aut hanc recusare; nullus etiam de aliis regnis intra terras Magni Kaam **monetam aliam potest expendere, soli autem officiales regis monetam hanc faciunt de regis mandato**.

Sepissime vero negotiatores de diversis regionibus venientes Cambalu deferunt aurum et argentum, margaritas et lapides pretiosos que omnia rex per suos officiales emi facit, et de moneta sua solucio fit; **si negotiatores sunt de extraneis nacionibus ubi hec moneta non currit**, quandoque commutant in alias mercaciones et ad suas deferunt naciones et regiones, propter quod ipsa moneta a nullis negotiatoribus recusatur.

Insuper etiam sepe mandat rex in civitate Cambalu ut quicumque aurum <vel> argentum habent aut lapides pretiosos |46a| suis officialibus **quam citius** exhibere studeant, et eis de moneta illa secundum extimationem debitam providetur quod **absque dilatione fit et sine eorum detrimento**; sicque **eorum indemnitati cavetur** et rex potest per hunc modum thesauros infinitos et admirabiles congregare. **De hac moneta suis exercitibus et officialibus stipendia tribuit et quicquid pro curia necessarium est emitur**.

Immensam igitur pecuniam **pro nichilo** habet et in hunc modum manifeste apparet quod Magnus Kaam in **expensis**, divitiis et thesauris universos mundi principes superare potest; **nam oportet omnes a curia eius monetam emere, que ita continue custoditur, ut indeficienter ad omnes qui eam emere volunt habundantissime diffundatur**.

(Univ. di Venezia, *Ramusio Project*, *Redazione P*, virgo.unive.it より)

第 21 章 マグヌス・カアンのお金について、その計り知れぬ富について。

マグヌス・カアンの王のお金は次のように造られる。桑の木の**三つの皮**から**中間の皮**を取り、処理されてパピルスの葉のように**硬くされる**。その後、お金に似た大小の断片に裁断され、さらに王印が刻印され、その側に彼の様々な判が捺され、**こうしてお金は有効なものとなる**。少額のは、小トゥールーズ貨のような価値を持つ。別のは半グロッソ、三つ目のは2ヴェネツィア貨に至る。さらに 5、さらに 10 ヴェネツィア貨まである。

また、このお金を王はカンバル市で大量に造らせ、その支配下にあるほとんど全ての国で、死の刑罰の下に**誰も他のお金を作ったり使ったり、またこれを拒否したりすることは許されない**。また、マグヌス・カアンの領土にある他の国の誰も、**他のお金を流通させることは出来ず、勅令により王の役人だけがこのお金を造ることが出来る**。

また、様々な地域からカンバルにやって来る商人たちは、何度も金や銀、真珠や宝石を持ち来たり、王はそれらを全て自分の役人を通じて買い取らせ、かのお金で支払う。**もし商人がこのお金の流通していない外国から来た場合は、彼らは他の商品に変え、自分の国や地方に持って行く**。こうして、このお金はどの商人からも拒否されることはない。

さらにまた王はよくカンバル市で、金や銀や宝石を持っている者は皆、**できるだけ速やかにそれを彼の役人の下に持ち来たるよう努めるべし**とお触れを出す。そして、その評価に従ってかのお金で彼らにしかるべき額を支払うから、**遅れたり損したりすることはない**。こうして**彼らは補償され、かくして王は無限の驚くべき財宝を集めることが可能となる**。**このお金で彼の軍隊と役人に給料が支払われ、また宮廷に必要なものは何でも購入される**。

このようにして彼は莫大な金を**無から**手に入れるのである。このことからして、マグヌス・カアンは**経費**、富、財宝において世界の全ての君主に優っていることは明らかであろう。**実際、誰もが彼の宮廷からこのお金を買わなければならない、それを買おうとする者皆に切れることなく豊富に行き渡るよう、絶えず補給されるのである**。

かく、要約というよりは、ほぼ全面的な組み替え書き換えである。太字で示した部分は、F との異なりはこれだけというわけではなく、いちいち検討することはしないが、とりわけはっきりとしている箇所である。紙幣がいかに作られるかやその種類よりも、グラン・カンがそれをいかに流通させ、それでもっていかに財を集めるかの仕組み、とりわけ「**無から**」pro nichilo 莫大な富を手に入れるカラクリの方が詳述され、修道士ピピヌスもそれに大いに興味を持ったことが窺える。全体として底本 VA と相似するが、異なる語句や文も多い。

6 R : *Navigazioni e Viaggi*, Vol. II, Cap. 18.

Della sorte della moneta di carta che fa fare il gran Can, qual corre per tutto il suo dominio.

In questa città di Cambalù è la zecca del gran Can, il quale veramente ha l'alchimia, però che fa fare la moneta in questo modo: egli fa pigliar i scorzi degli arbori mori, le foglie de' quali mangiano i vermicelli che producono la seta, e **tolgono** quelle scorze sottili che sono tra la scorza **grossa** e il fusto dell'arbore, **e le tritano e pestano, e poi con colla le riducono in forma di** carta bambagina, e tutte sono nere; e quando son fatte le fa tagliare **in parti grandi e picciole, e sono forme di moneta quadra, e più lunghe che larghe**. Ne fa adunque fare una picciola che vale un denaro d'un picciolo tornese, e l'altra d'un grosso d'argento veneziano; un'altra è di valuta di due grossi, un'altra di cinque, di dieci, e altra d'un bisante, altra di due, altra di tre, e così si procede sin al numero di dieci bisanti.

E tutte queste carte ovvero monete sono fatte con tant'auttorità e solennità come s'elle fossero d'oro o d'argento puro, perché in ciascuna moneta molti ufficiali che a questo sono deputati vi scrivono il loro nome, ponendovi ciascuno il suo segno; e quando del tutto è fatta com'ella dee essere, il capo di quelli per il signor deputato imbratta di cinaprio la bolla concessagli e l'impronta sopra la moneta, sì che la forma della bolla tinta nel cinaprio vi rimane impressa: e allora quella moneta è auttentica, e s'alcuno la falsificasse sarebbe punito dell'ultimo supplicio.

E di queste carte ovvero monete ne fa far gran quantità, e le fa spendere per tutte le provincie e regni suoi, né alcuno le può rifiutare, sotto pena della vita; e tutti quegli che sono sottoposti al suo imperio le tolgono molto volentieri in pagamento, perché dovunque vanno con quelle fanno i loro pagamenti **di qualunque mercanzia** di perle, pietre preziose, oro e argento, e tutte queste cose possono trovare col pagamento di quelle. E più volte l'anno vengono insieme molti mercanti con perle e pietre preziose, con oro e argento e con panni d'oro e di seta, e il tutto presentano al gran signore, qual fa chiamare dodici savii, eletti sopra di queste cose e molto discreti ad esercitar quest'ufficio, e li comanda che debbano tansar molto diligentemente le cose che hanno portato li mercanti, e per la valuta le debbano far pagare. Essi, stimate che l'hanno **secondo la lor coscienza**, immediate **con vantaggio** le fanno pagare con quelle carte, e li mercanti le tolgono volentieri, perché con quelle (come s'è detto) fanno ciascun pagamento; **e se sono di qualche regione ove queste carte non si spendono, l'investono in altre mercanzie buone per le lor terre.**

E ogni volta ch'alcuno averà di queste carte che si guastino per la troppa vecchiezza, le portano alla zecca, e gliene son date altrettante nuove, perdendo solamente tre per cento. Item, s'alcuno

vuol avere oro o argento per far vasi o cinture o altri lavori, va alla zecca del signore, e in pagamento dell'oro e dell'argento li porta queste carte; **e tutti li suoi eserciti vengono pagati con questa sorte di moneta, della qual loro si vagliono come s'ella fosse d'oro o d'argento:** e per questa causa si può certamente affermare che il gran Can ha più tesoro ch'alcun altro signor del mondo.

(ww2.bibliotecaitaliana.it より)

RII18 グラン・カンが造らせその全領土で通用している紙のお金の種類について。

このカムバル市にはグラン・カンの造幣所があり、次のようにしてお金を造らせるから、彼はまさに錬金術を手に入れている。桑の樹、絹を作る虫がその葉を食べるあの樹であるが、その皮を採集させ、**厚い皮と樹の幹の間にある薄い皮を剥ぎ、それを刻んで搗き、その後糊で綿紙の形にする。**すっかり黒い。それが出来ると**大小の部分に裁断させ、すると四角いお金の形になり、横より縦の方が長い。**それから一トゥール・デナロに値する小さいのと、ヴェネツィア銀・グロッソの別のを作らせる。さらに二グロッソ・五グロッソ・十グロッソ、また一ビザンテ・ニビザンテ・三ビザンテのもの、こうして十ビザンテの数まで進む。これらの紙つまりお金は全て、まるで純金か銀でできているように大きな権威と威厳をもって造られている。というのも、どのお金にもその役目に就いている多くの役人が自分の名前を書き入れ、それぞれ自分の印を押しているからである。決められたとおりにでき上がると、君主から任命された彼らの長が自分に授けられた印に朱を塗り、お金の上にそれを捺す。すると印の形が朱に染まってそこに捺されて残る。そうするとそのお金は正式のものとなり、もし誰かがそれを偽造したりすると極刑に処せられる。

彼はこれら紙つまりお金を大量に造らせ、自分のあらゆる地方と領土で使わせるのだが、命にかかわる罰のもとで誰もそれを拒むことはできない。彼の支配下にある者は皆とても飲んでそれを支払いに用いる。というのもどこへ行こうと、真珠・宝石・金銀のいかなる商品であれそれでもって支払いをなし、またそれら全てがこれを支払うことによって手に入れることができるからである。また、年に何度も多数の商人がこぞって真珠・宝石・金銀・金糸と絹の錦をもってやって来、全部大君に贈る。すると彼は、そのために選ばれその役目を果たすにとっても適した十二人の識者を召し、商人たちが持ってきた物をとても入念に値踏みし、その値打ちに応じて代価を与えるよう命じる。彼らはそれを**自分の考えに基づいて評価し、利益をつけて**すぐかの紙で支払わせ、商人はそれを喜んで受け取る。というのも、それでもって**すでに述べたごとく**銘々が支払いをするからである。もしどこかこれらの紙が通用しない地域に行くなら、それらの土地に合った他の商品にそれを投資する。また、誰かが余りにも古くなって痛んだこれらの紙を手にすることがあると、その都度それを造幣所に持って行くと、三パーセントを失うだけで同じ新しいのが手渡される。また、もし誰かが壺とか帯その他の製品を造るために金や銀が要るときには、君主の造幣所に出向き、その金や銀の支払いにこの紙を持参する。彼の軍隊は全てこの種類のお金で給与が支払われ、彼らはそれをまるで金か銀のように使う。以上の理由から、グラン・カン**は世界のどの君主よりも多くの財宝を有しているとはっきりと断言することができる。**

(拙訳『世界の記』より)

F は、写本としては一番古く全ての基礎となるものであるが、内容つまり記事の豊かさとその詳細さ・正確さの点では Z・R に劣ること、しかし言語と文体の点では最もルスティケッロの原本に近いこと、かのピーサの作家がこれを記述していた時の心情と口調をなお留めていることは、何度も見て来た。そのことはどの章にも感じ取れるが、「紙のお金」に興奮し、それがどのように作られ使われるかを西方の読者に教えんとするこの章も、それが最もよく伝わる一つである。

例えば、F は次のように始まる：「**本当にいいですか、このカンバル市には大君の造幣所があるのですよ。そして、大君は完璧に錬金術を手にしていてと十分言ってもいいようなふうになっているのですよ。それを今皆さんに示しましょう。さて彼は、これから私が皆さんにお話しするようにしてそうしたお金を作らせることをご存じ下さい**」。これが R では、「このカムバル市にはグラン・カンの造幣所があり、次のようにしてお金を造らせるから、彼はまさに錬金術を手をしている」と、要点だけ訳して書き換えられ、筆者の興奮は伝わってこない。

また次のように終る、F「**今、大君がこの世界の誰よりも多くの財宝を有しているに違いないしまた有しているそのやり方と訳について皆さんにお話した。もっとすごいことを言いましょう。すなわち、この世の全君主とて大君が一人で有しているほど大きな富は持っていないのですよ**」。ここも R では、「以上の理由から、グラン・カン世界のどの君主よりも多くの財宝を有していると確かに断言することができる」と、最初の文は飛ばされ、最後まで冷淡である。F のルスティケッロの語り口 *il est uoir que*＜本当ですよ＞や *uoç di que*＜皆さんに言おう／いいですか＞や *sachies que*＜ご存じありたい＞は、この間でも何度も繰り返されているが、R では冗句として全て除かれる（Z はこの章を欠く）。

が、事実に係わることになる、ここでも R の方が詳細・正確である。まず作り方は、F「**桑の樹の皮と木の幹との間にある薄い膜を取り、それからパピルスのそのような紙を作る**」と、後半は同語反復のようで要領を得ないのに対して、R「**それを刻んで搗き、そのあと糊で綿紙の形にする**」と丁寧にある。紙の原料となるのは桑ではなく楮（クワ科）であったが、西方ではその区別はなかったのであろう。「糊」*colla* は墨が滲まないように表面に塗るもの、「綿紙」*carta di bambagina* とは、Fにあるような昔の「パピルス紙」*carta di papiro* に対して綿のような布の繊維をほぐして作った紙のことである¹⁾。楮を持たない西方は、ぼろ布から紙を作った。この文が F で採られなかっただけなのかそれとも後の知識で加えられたのか、これらだけでは決め難いが、少なくともポーロのノートにはあったと信じたい。FG は少し異なり、「樹の幹と外側の厚い皮との間にある薄い皮を取るが、それは白い。このパピルスのように薄い紙から**すっかり黒い**のを作る」とあった。これからするかぎり、祖本には F よりもう少し詳しくあったのであろう。あるいは、写字生や編者がそれぞれ自分の博識を披瀝する絶好の箇所であったことも考えられる。

出来上がったその紙を F は単に「裁断させる」に対して、R「**大小の部分に裁断させ、すると四角いお金の形になり、横より縦の方が長い**」。その紙から、1/2 と 1「小トルセネル」、1/2・1・2・5・10「グロス」、1・3~10「ベサント」の価値のお金を作られる。トルセネルはフラン

スのトゥール銅貨、グロスはヴェネツィア銀貨、ベサントはビザンチン金貨で、当時ヨーロッパで広く流通していた。貨幣に限らず数値には全て西方の単位が使われており、そのことも筆者がその世界の人物で、後に書き記す時に換算したよりも、最初からその単位で記されていたであろう。現地の通貨との交換率が記してあればそのことの有力な証明となったであろうが、元交鈔の単位「文・貫」は出てこない。金朝以来大鈔・小鈔の2種があり、大鈔は額面1貫・2貫・3貫・5貫・10貫の5種、小鈔は100文・200文・300文・500文・700文の5種だったとされる。

その後、裁断した紙に、Fは「大君の *seel*〈印〉が捺してある」としかないので、R「**どのお金にもその役目に就いている多くの役人が自分の名前を書き入れ、それぞれ自分の *segno*〈印〉を捺す。それが決められたとおりにでき上がると、君主から任命された彼らの長が自分に授けられた *bolla*〈印璽〉に朱を塗り、お金の上にそれを捺す。すると印璽の形が朱に染まってそこに捺されて残る。そうするとそのお金は本物となり、もし誰かがそれを偽造したりすると極刑に処せられる**」と、お金として通用さすに必要な全ての処置の説明がある。Fの要約か、二次編纂の時にZ(R)加えられたものか決め難いが、マルコのノートには必ずやあったことであろう。ここでもFの写字生の資質が問われる。一方、Fの「いいですか、十ビサントの価値のある紙もその一つ分の重さもないのですよ」と、硬貨に比べて紙幣の軽さと便利さを伝える文はRにはない。

本書が、ヨーロッパに初めてあるいは最も早く伝えた東方の事どもは数多い。全編とりわけ中国については全てがそうであったといって過言でないが、紙幣もその一つであった。最初ではないが、簡にして要を得ている。しかしながら、ここではせっかく紙幣を紹介しながら、それに関連する他の多くのことに筆が及んでいないのが惜しまれる。

その最大のものが印刷術であろう。上の文がポーロのノートからのものであれば、どちらも紙幣は直接紙に「印を捺して」出来上がるものと考えられている。が、紙幣はすでに多色の印刷であった。筆者はそれを見誤ったか、あるいは一枚一枚捺す単なる印判で、木版印刷のことすら理解されていたか疑わしい。確かに紙幣は印を捺すに近いが、版木に文字を彫って刷る雕版印刷のことには言及されていない。17年現地にあり、たとえ漢語は読めなかったにしても、おそらく多くの書き物を目にしたであろうポーロがそれを知らなかったとは考え難い。泥や木で作った個々の活字を組み合わせる活版印刷も、11世紀北宋の頃にはもう始まっていたが、それもない。もっとも、画数が多く数万に上る漢字の活字を全て用意するのは容易ではなく、手間がかかっても直接版木に彫る方が早かった。それに、不揃いな個々の活字を組み合わせると、一枚の板にまとめて彫るのとでは、刷り上がりの出来映えが違った。活版印刷が中国で普及せず、ヨーロッパで先に広まったのは、線が単純で二十数文字で済んだからであった。が、150年後15世紀半ばまで待たねばならず、むしろ遅すぎたと言うべきであろう。

のみならず、文字もそうである。上の文では、「印」と言うのみで、その中に彫られてある文字には言及しない。またその印の中身、役人の名前のほかに金額や年月や職名があったはずであるが(図6)、それもない。さらには、中国であれ他のどこの国であれ、書物あるいは書き物

についての少しでも詳しい話はどこにも出てこない。写本 F は羊皮紙であり、ルスティケッロの現存するもう一つの作品『メリアドゥス』も羊皮紙に書かれている。13 世紀、西方にももう製紙法は伝わり、中頃にはイタリアはファブリアーノで紙の工場生産が始まっていた。ポーロがメモ・ノートを取っていなかったことはありえず、それは必ずや東方の紙に書かれていたと考えられるし、ルスティケッロもそれを見たに違いないのであるが。

こうしてマルコは、せっかく製紙法と紙幣については詳しく説明しながら、印刷術と漢字についても西方への最初の紹介者となる機会を失った。紙幣はもちろんクビライによって始められたものではなく、宋の時代（1070 年頃）から使用されていた（交子）。ポーロに先立って紙幣を最初に紹介したルブルクは、「カタイの普通のお金は幅と長さ一掌尺の綿の紙で、その上にマングの印に似た模様が捺されてある」と、印刷についてはやはり印判でポーロとさほど変わらないが、その後、「彼らは画家が絵を描く時のような筆で書き、一語を表すいくつかの文字を一つの形にする」と、簡単ながら毛筆と漢字的確な紹介があった²⁾。

それに対して、この筆者が驚き強調するのは、その紙のお金の社会での流通と臣民の信用であり、それに基づくグラン・カンの富である。いくらでも大量に造ることができ、どこでも通用し、拒否すれば命にかかわる罰を受ける、大君は 12 人の識者を選んで、商人が持って来た金銀・真珠・錦に価値を付けさせ、この紙で支払わせる、のみならず、F「それを大君の造幣所に持って来るべしとの布告が、年に何度も町に出る」(R なし)。このやり方で、「大君は全土の金銀・真珠・貴石を手に入れる」仕組みになっている。さらに、破れたり痛んだりすると造幣所に持って行き、「百につき三」を失うだけで新しいのと交換するし、R「**軍隊は全てこの種類のお金で給与が支払われる**」(F なし)。以上がグラン・カンの「鍊金術」の秘密であり、それ故にと、最初に引用した最後の文に結ばれる。

紙幣は、パイザと並ぶ貴重な証拠品としていくつか持ち帰られたのではないかと想像されるが、遺品目録にそれらしきものはない。持ち出しは厳しく禁じられていたのであろう。また、大都での様々な物の値段も、これを使った買い物の話もない。紙幣にまつわる個人の体験談は一切ない。本書は、世に出るとすぐ話題になったが中身は信用されず、作者は‘ほら吹きマルコ’と噂されたことが伝えられるが、紙幣の記事はその最たるものであったろう³⁾。ヨーロッパで紙幣が発行されるのは、17 世紀になってからのことであった（1661 年）。

1) Ch.58「サチュ」の紙銭・紙馬も、F は「パピルスの紙」、R は「木の皮から作った紙」。 2) Rubruc:271. 3) ボッカチオ『デカメロン』に、東方の「メンゾーニャ」（嘘）国では「お金を鑄造せぬまま使っている」、とある（第 6 日第 10 話「チボッラ修道士の旅」）。この文は文字通りとれば、‘地金’をそのまま貨幣として使っているという意味になるが、‘紙の金’のことも踏まえられているであろう。

（拙著『マルコ・ポーロとルスティケッロ』より）



図6 元交鈔 原版（銅板、左）・印刷版（紙、右）（Baidu より）